

## カトリック山手教会月報

## やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地  
 ☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第595号 2019年5月8日

## 「新緑のまぶしさの中で」

主任司祭 ミカエル鈴木 真

ご復活おめでとうございます。復活徹夜祭の中で、沢山の受洗者の皆様を山手小教区共同体に迎えられたことを、本当にうれしく思います。キリストに従って歩む家族の一員として、これから共に歩んでゆければと願っています。

わたしも山手に異動して1年が経ちました。毎年感じるのですが、わたしはどうも春という季節が今一つ苦手です。落ち着かない気分になるというか、何となくそわそわするというか…。暖くなるのはいいんですが、何かと変化が多い季節のせいか、満開の桜をきれいだなと思いつつ、やはりどこか不安を感じてしまいます。去年は異動だったので、一層落ち着かない感じでした。むしろ桜の花が落ちて新緑の緑が目まぶしい頃になると、ようやく気分も落ち着きます。それにしても、新緑というのは何とも心を和ませるものですね。初々しいと同時に、生命力に満ちているというか、新緑の緑を見ただけで生きる力をいただける思いがします。もともと緑というのは目に優しい色だと言われますが、「色」というのも人間にとって大切なものなんだなあ、と感じます。カトリックは五感にうったえるのが好きですが、ご存じのように典礼の暦を色で表現します。白、赤、緑、紫。それぞれに意味があって、白は復活、赤は血と火の色、紫は「待つ」という意味。特別な時でない「年間」は緑が使われますが、由来は

諸説あって、わたしが聞いたのは樹木の緑、「繁栄」を意味するのだそうです。緑という色の中に、神さまから与えられるいのちの充満、そしてそれを分かち合って共に生きてゆく象徴を見ることは、とてもカトリックっぽいですよね。今年も新緑の季節を迎え、そのまぶしさの中で、神さまからいただくいのちの恵みを、共に分かち合って参りたいと思います。

## ご挨拶

協力司祭 ドミニコ李 浄雨



この度、山手教会に協力司祭として新しく赴任致しましたドミニコ李 浄雨（イ・ジョンウ）と申します。

昨年5月に韓国から参りました。最初は二俣川教会で過ごし、日本語学校に通うために最近まで司教館で暮らしていました。近くで山手共同体の明るくて活気のある様子を見ていて、私も新しい力が湧き出てくるのを感じました。そして、神様に愛されている家族は、いつも人々に良いものを惜しまずにあげているのを改めて知りました。これから私も山手教会の一員として、もっと神様に愛される共同体になるために努めて参ります。

2003年に叙階されて15年間司祭として生活しておりますが、日本では生まれて、まだ1年も経たない赤ちゃんのような者です。ですから、イエス様の復活によって受けた皆様の温かい愛がなければ山手の家族になれないと思います。

皆様のお祈りとご協力をどうぞ宜しくお願い致します。